

新潟県

平成2年

公民館月報

3月
第445号

特集 高齢者の学習活動

—西川町の高砂学級—



三芳悌吉「浜木綿」

1976年作 89.5×145.5cm

油彩キャンバス

新潟県美術博物館所蔵

終戦直後、行動美術協会の創立に参加した作者(1910~)は、新潟市に育った。小さな動物・野原の植物・人々の日常の暮らしなどをいとおしみながら、清らかで、ロマン溢れるタッチの画面に仕上げてゆく。この視点は、新潟で培われた。「廃船」のように、使命を終えた物にも魂がある。いわんや野の草にも。その思いの強さが、作品の力となって私達に語りかけてくる。

第四回理事会開催

主催事業の充実を検討

関ブロ・全公連へつなぐ活動も

二月二十三日(金)午後一時半から新潟市中央公民館会議室において、平成元年度第四回理事会が開催された。

主要議題は、今年度の会務報告(下半年期)と反省。歳入歳出決算の見直し。平成二年度の基本方針・重点目標・事業計画な

らびに予算案づくりなどで、午後三時半閉会した。

まず、全体反省では、「研修」の活性化に関する取り組みが取り上げられた。

当県公連主催の「公民館職員研修」に対する受講者の漸減化傾向(月報2月号に紹介)につ

一年を振り返る

平成元年度は当県公連にとって意義深い年であったように思う。それは、年号が昭和から平成に変わっただけではない。

まず、当県公連設立40周年(社会教育法施行40周年)の記念すべき年であった。そのイベントとして大きく取扱われた第40回

県公民館大会のシンポジウムやNHK解説委員の出畑彦右衛門氏による記念講演の提言は参加者に強いインパクトを与えた。

続いて、八月には金子県知事

を部会長とする「新潟県生涯学習推進部会」の設置がある。これを契機として、県下の市町村での生涯学習推進体制への取り組みは活発化した。それはまた

公民館へも波及し、揺れ動いた一年だったように思う。

さて、このような情勢の中で、変化の時代と言われる九〇年代を迎えた公民館は、地域づくり、人づくりの中心として、特色ある活動の展開が求められている。このため、館長職員の卓越した資質が必要であり、研修の重要

を指摘するゆえんでもある。

いて問題が提起され、研修の重要性に対する館長の認識の更改の必要、ならびに職員の実情を勘案し、積極的参加を勧める必要が話し合われた。

続いて、県公連の活性化について、公民館職員の専門職制の確立にある。これは、研修の

性を指摘するゆえんでもある。

第四回理事会において、理事事から「地区公連の主催研修において、公民館長(とりわけ非常勤館長)の勤務態様の多様性にふれ、研修内容の検討が必要である」と問題を指摘した。このことと前後して、会長白から

県公連主催の「館長研修」の必要を提起していたが偶然の一致ではない思いがする。

平成二年度は、各公民館が腰を据えて、特色ある事業に取り組み、存在感を示しうるように一層役に立つ県公連になりたいと思っ

(事務局長 上村捨二郎記)

充実もさることながら、行政への対応が重要である。本県公民館振興市町村長連盟ひいては、全国公連・全国公振連に対し改善運動の申入れをする必要がある、などの意見が出された。

平成二年度の主要事業

一、第41回新潟県公民館大会
開催日時 7月20日(金)午前

10時開会、午後3時半閉会
会場 燕市文化会館
主管 西蒲・燕公連

参加費 千七百円(昼食付き)
細案は四月号に掲載予定

二、公民館職員研修
公民館職員としての経験一年以上の職員を対象として

一泊二日の宿泊研修とする。

三、県公連40年誌の作成(平成元年度第2回評議員会で決定済みの事業)

四、関ブロ公研集会の準備
平成三年度に実施される。

第32回関ブロ公研集会(第42回県公民館大会)の主管

県として、成果を得るため準備委員会を設置してことに当たる。

なお平成二年度の第一回評議員会は、4月24日(火)13時30分に開会し、15時30分に閉会の予定で開催する。会終了後は会費持ち寄り(三千円)による懇親会を開催することになっている。

地域住民への思いやりと

あたたかいコミュニケーション

公民館
自治館

総合補償制度

加入受付中

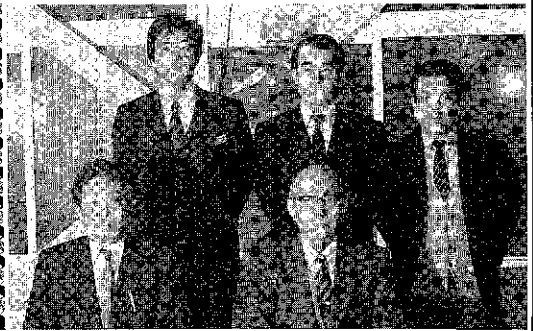
取扱店 安田火災海上保険(株)新潟支店 TEL.(025)225-1812

貴重な意見をどっさり 任期最後の編集委員会終る

2月21日、編集委員会を新潟市中央公民館会議室で開催(二名欠)され、次の諸点が指摘された。

- ①編集委員は、駐在員の性格を強め、各自のエリアの情報収集に当たる。
- ②読者層の拡充を狙い、「グループ紹介」欄を新設したらどうか。
- ③実践記録は公民館の特色ある事業にスポットを当てる。
- ④講演記録は、多忙な公民館職員にとって貴重な読みもの。さらに充実を。
- ⑤素顔拝見は、年度当初に割振って各市町村の洩れを防ぐ。

以上の諸点が提起された主要点である。編集部では極力新年度に生かしていく考えである。最後に木下会長から二年間のねぎらいの言葉で閉会した。



辛 口

県公振連 原点を求めてみますと、市町村その他一定の区域内の住民のために(社教法第20条)また、公民館のあるべき姿と今日的指標に、①人間尊重の精神②生涯教育態勢の確立③住民の自治能力の向上、が

住民自治能力の向上に

小千谷市長 小出 弘

の自治能力の向上、がうたわれています。通して私は仕事の関係から、住民の自治能力の向上に資していただきたいことを、先ず第一に希求するものです。

気運醸成と 生涯教育態勢の整備

公民館の今日的課題として提起した四つの課題をふまえて、それらの課題を解決するための明日への方策について、希望と期待をこめて次の五つの方策を提案したい。

まず第一の方策は、「地域における生涯教育への気運醸成と、生涯教育態勢の整備」ということである。

日頃私は、公民館活動振興の鍵は「住民の自発的な学習意欲を如何に高めるか」にあると考えてきた。

続公民館日記(10)

私は公民館が地域における生涯学習の中心的な施設として、その役割を果たすために地域における生涯教育態勢を整備して、地域の生涯学習への気運を高めることこそ、まず大切なのではないかと思うのである。

新潟県では先に「県生涯教育推進会議」の提言も行われ、本年は文部省の生涯学習局も発足し、まさに生涯学習時代に突入したという感の深い昨今である。

そして公民館は、地域における生涯学習の中心施設としての役割が期待されているのである。(柏崎市中央公民館 元事務長・徳間助夫)

学 習 活 動

高 砂 学 級

6 日 7 日 に 開 催 さ れ た、 関 東 甲 信 越 経 概 要 再 録 で あ る。

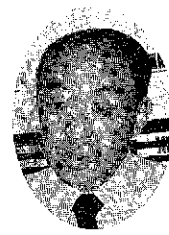
助 言 者 大 潟 町 公 民 館 長 藤 辺 之 夫 氏
レ ポ ー タ ー 西 川 町 教 養 社 教 主 兼 大 島 利 道 氏



宮 嶋 氏



渡 辺 氏



田 子 氏

西川町は、西蒲原郡にあり、
県都新潟市に隣接する、人口一
万三千人の町である。かつては、
米作中心の農村であったが、近
年は、新潟市のベッドタウン化
し、また、一部では工業地帯に
もなりつつある。

この町の優れた高齢者学級の
実際を関プロ公研集会で発表し
たところ、参加者から驚嘆の賛
辞をうけたので、その部会があ
らましを、西川町教委の大島利
道氏(社教主事、現学校教育課
長)から執筆してもらった。

一、発表の概要

1 高砂学級の開設

西川町の高齢者学級(高砂学
級)は、昭和四十六年に「老人
憩いの家」が出来たことを記念
し、公民館が老人クラブの役員
と相談して開設したのが始まり
である。

最初の年は幹部養成も兼ねて
老人クラブの各単位クラブの会
長を含めて三人づつ参加して
もらうことにした。この歳になっ
て今更学級生でもないだろ
う! という声がつよく、心細
い開講であったが、出席率だけ
はよく順調に経過した。
開設の当初、昭和46年に63人
だった学級生数も、次表(1)のと
おり年々増加し平成元年には463
人となっている。



発表中の田子氏

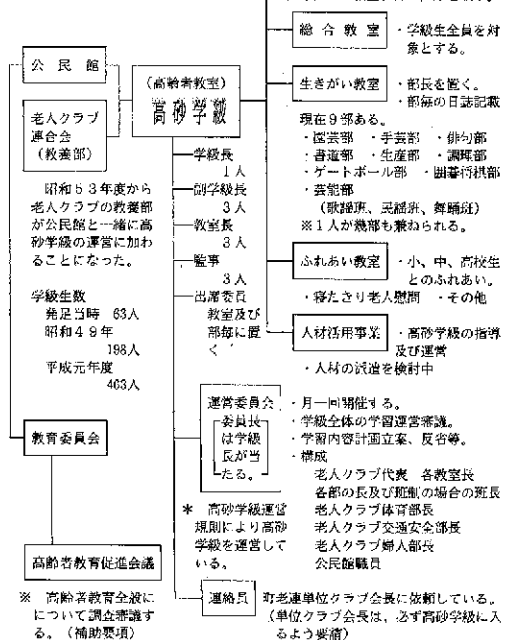
2 高砂学級の運営

高砂学級の運営については、
前述のとおり発足当時から老人
クラブの役員と相談しており、
開設二年目(昭和47年)には老
人クラブ役員4人、学級生代表
4人、公民館職員2人及び社会
教育主事1人の構成で、「高砂学
級運営委員会」を設置した。
運営委員会の発足により自主
運営・自主活動の方向付けがな
された。

運営委員会は、高砂学級の運
営全般についての話し合いを行

年 度	学級生数
S 46	63
47	81
48	146
52	291
53	319
59	413
H 1	463

<表2> 高砂学級(高齢者教室)組織図



なり機関とし、学級生の意見、
老人クラブの意見などを十分に
受け入れて高砂学級の円満な運
営を行なうことを目的とした。

同年(47年)老人クラブの単
位クラブ会長を高砂学級の連絡
員に依頼することになり、それ
以後高砂学級の申し込み、視察
研修の取りまとめ、事業内容の
文書の配布等、すべての連絡及
び取りまとめに当たってもら
うことになった。

昭和53年からは高砂学級の運
営を、公民館と老人クラブ連合
会の教養部で運営することにな
り、これで高砂学級の運営の基
礎は確立した。

3 高砂学級の組織等

高砂学級の組織の概要は表2
で示したとおりである。
その他に「文集高砂」を発行
している。文集は昭和49年度に
初版を発行し、以後現在まで続
いており15号を数えている。寄
稿者も初版には43人(23頁)だっ
たのが今ではほぼ200人(190頁)
になっている。

運営委員会では、近年、社会
人としての現役の老人や寝たき
り老人に対して、「届ける教育」
はできないかと施策の実現に向
けて検討をすすめている。
昭和63年度には、高砂学級の
規約を制定し組織の内容を明確
にした。

高齢者の 西川町の

この実践発表は、去る平成元年9月
公民館研究集会(水戸)の第8部会

発表者 西川町公民館長 田子了秀氏
司会者 村松町公民館長 宮嶋昌世氏

福祉の本来的な姿ではないのか。
・老人クラブの会長から文句がでないのか。
などの質問や意見が統出され、その回答は

・西川町は人口規模の小さな町であり、農業を中心とした商工業の混在地帯であることが、条件的にやりやすい地域であること。幸いにして町老人クラブの会長および副会長がそのまま高砂学級の学級長・副学級長であり協力が得やすい。
・予算についても、国庫補助50万円(平成元年度は70万円)を受けており、町当局も理解を示している。

このような西川町の高砂学級の質疑とともに、他県の実情も活発に発表されたが、高齢者教育の難しさを感じさせられるものばかりであった。とりわけ人口の多い都市での対応が難しく、限られた少数の教室を各地区に分けて実施しているというのが実情のようであった。

二、部会での意見交換

1 発表への質疑

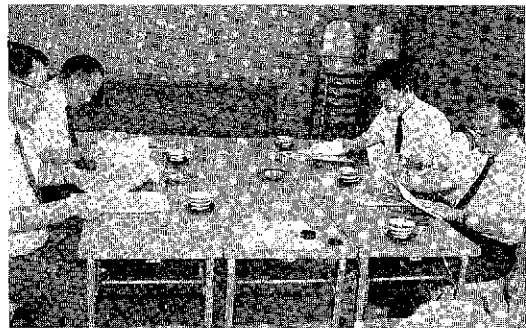
西川町高砂学級の、自主運営及び自主活動を基本とした活動の実際、老人クラブと一体になったユニークな運営方法などについては、おおよそその理解を得るとともに、少なからざる共鳴や驚きの声を聞いた。しかしその反面では数多くの疑問も出された。
・なぜ、そんなに参加者が多いのか。
・学級予算(140万円)は大過ぎないのか。
・運営費などは、もっと自分たちが持ち出しで行なうのが社会

2 意見交換

統出する意見を、司会者の巧みな取りまとめにより、三つの柱にわけて実情や意見の発表がなされた。

(1) 老人クラブと公民館とが一体となった学級運営について。
・福祉行政と教育の事業とは次

三者で入念な事前打ち合わせ(右から二人目が執筆者の大島氏)



「意見発表会」などで変化を与え学習意欲を増させては。
3 指導と助言
助言者は、高砂学級が自主活動と取り組んでいることの素晴らしさを高く評価するとともに、次のような助言をされた。
・高齢者学級の大切なことは、高齢化社会にあって、老人に「余生を楽しく」という発想ではない。老人が生きてきた人生を後世に語り継ぐことによって、高齢化社会を生きぬく学習にすることが肝要である。
・公民館は、世代間交流等の中で、若者に高齢者との共存を学ばせるなどの橋渡しが必要。このため、公民館では、高齢者と若者が一体化できるような事業を企画すること。通常の学級や講座にも、高齢者が参加できる余地を残した学習内容を工夫してほしいものである。
・参加できない老人(寝たきり老人など)に対する「届ける教育」は、文集にまとめることやテープやVTRなどを使っての語り継ぎなどを工夫して具体化を勧めたい。
・また、これからは、個人で学習する老人も大幅に増えると思われるので、サークル化してやるのも一つの方法であろう。
・高齢者の教育を推進するには

首長の理解と認識を深めることが大切なので、その面での努力も重要である。

・これからは、集める学習ばかりでなく、同好の学習グループを育成して、そのグループに指導者を派遣する「公民館学習の出前」をすすめていく必要もある。また、公民館と老人会の共催だけでなく、いろいろな団体と共催して地域の住民団体と一緒にやって行なう企画も必要だろう。

最後に、司会者によって「来年、長野県でまたお見え出来ることを期待し、本日の高齢者教育部会の問題点がどこまで改善されたかを話し合いたいものです。」という印象的な言葉で部会研究は終わった。

三、おわりに

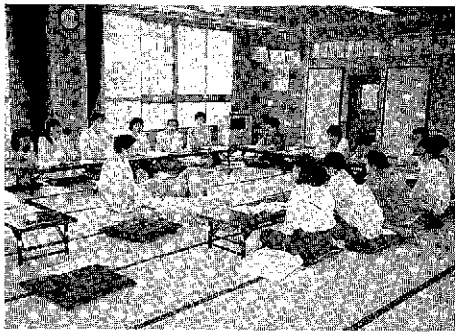
益々ふえる老人人口。一重要される老人問題。これらの課題に対応した公民館の取り組みが期待されるとともに、その難しさが問われた研究集会であったように思う。
これからも、一層真剣に老人問題に取り組み、高齢者教育が生涯教育の中核になることを祈って止まない。

川西町公民館

実践記録シリーズ (38) マンネリズムの克服に成功 関係機関との協力に活路

川西町の婦人学級は、5地区で年間8回、各地区とも同じプログラムで実施してきましたが、年々参加者が減少し、このままでは学級の存在が危ぶまれる状態にまでなりました。

その原因としては、学級生の高齢化・リーダーの不足、学習内容のマンネリ化が挙げられますが、これといった改善も無いままに今日に至りました。しか



老人家庭看護法を学習中

婦人サークル活動年報表

年月	活動内容	時間	会場	備考
6月	ソフトエアロビクス 5, 12, 19, 26日 (月曜日)	午後 7:30 ~8:45	千手小 体育館	シオノ 運動服 スウェット
7月	ソフトエアロビクス 3, 10, 17, 24日 (月曜日)	同	同	同上
7月	読書研習会 「会と緑の博覧会」 第4回(水曜日) 第5回(水曜日)	日	新沼南	参加費
8月	夜涼を待つゆゆう 大休室通気 使った紙巻 4日(水曜日) 雨天の場合5日	午後 8:00 ~8:30	千手小 2Fホール	
10月	学習を振り返って 発表会 18日(水曜日)	午後 8:00 ~9:30	総合 ホール	

し、何よりも大きな原因は、婦人会組織の衰退によるものと思えます。かつて婦人会が各地区にあり、婦人会員が学級生でもあったからです。

一、新たな試み
そこで、新たな組織作りの第一歩として、誰でも気軽に参加でき、楽しめて満足感のある「ソフトエアロビクス」を3地区に取り入れてみました。すると、各地区ともに大盛況でした。参加者の年齢も30~40代が8割を占めました。その結果、地区毎の学級生名簿を作成することができ、今後の公民館事業への参加を直接呼びかけることができるとなりました。

二、次いででの挑戦
次に学習内容の問題点は、講師の選択とプログラムのマンネリ化でしたから、専門的に学びたいという希望にこたえるため、(公民館だけでは予算面での限界がありましたので)思いきって関係機関との連携による学級を昼間に開設しました。

日本赤十字社と共催で「基礎家庭看護法」「幼児家庭看護法」「老人家庭看護法」の三つの教室を開設しました。いずれも2時間単位の6回です。

日赤との共催事業ですので、住民課や川西日赤分区分から協力してもらいました。参加者の募集は、保健衛生課の保健婦や母子推進委員の方々からチラシ配布や各検診時にPRをしていただきました。また、「基礎看護法教室」「老人家庭看護法教室」については、社会福祉協議会で計画中の研修と合わせて実施し、ボランティアの方々との協力を得ました。各教室とも定員を上回る申込みがあり、出席率も毎

回8割を超えています。昼間の学級にもかかわらず、このような好結果となった要因は、対象者を把握し、関係機関ごとにバラバラにやっていた講習等を公民館が一本化したことによるものと思えます。

さらに、同じ専門コースを同じ講師によったことで、学習内容はむろんのこと、いろいろな問題について一貫した話しいかがなされ、講師と学級生の一体化がうまれたものと思えます。

三、さらなる充実のために
この学級の他にも、従来の婦人学級の中に、ビデオプロジェクトを使用した「優秀ビデオ作品観賞」、「天体望遠鏡での星座観察」を盛りこみ、親子で参加できるような学級にしました。

このような取り組みの結果、

学級への参加者は、従来の十数倍になり、公民館のPRは十分にできたと思えます。

四、新たな対応
幼児を連れての学級活動をすすめるために、保育室の設置を、夫婦で楽しめる学級ソフトエアロビクスのように身体を動かすものを、などの要望が出ています。こうした声を来年度に少しでも生かし、関係機関との連携をさらに深く密にして、より楽しく学習ができるように努力したいと思えます。

(川西町公民館主事 保坂 久代記)

老人家庭看護法教室
お母さん、お父さん、おじいちゃん、おばあちゃん、みんなが元気で暮らせるように、お家のことを学んでいきます。

幼児(3歳)家庭看護法教室
お母さん、お父さん、おじいちゃん、おばあちゃん、みんなが元気で暮らせるように、お家のことを学んでいきます。

川西町公民館(総合体育館内)
8月13日
8月17日
8月21日
8月25日
8月29日
8月31日

川西町公民館(総合体育館内)
8月13日
8月17日
8月21日
8月25日
8月29日
8月31日

電話 68-2167 5588

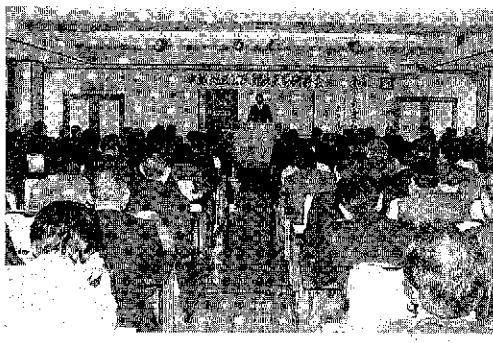
中越地区公連主催

公民館長・職員研修会

二部会八分散会

二月二十日(火)、川口町「サ
ンローラ川口」を会場に、中越
地区公民館長・職員研修会が開
催された。参加者総数は百六十
名。川口町ならびに信濃川・魚
野川を眼下に見下ろせる眺望絶
佳の高台の地で「公民館職員と
して「生涯学習」にどう取り組
むか」を主題に研修が進められ
た。

午前は、CBSソニーファミ
リークラブの赤平勝利氏によ
る「音楽による創造性と能力開



発」と題する講演。人間の太
生心理学に関する内容を平易に、
しかもBGMをそえての講演に
感銘を深めた。

午後は、館長部会四分散会、
主事部会四分散会の合計八分散
会で、研究協議がなされた。発
表者・助言者なしで、参加者各
自が問題を持ちより、自由に発
言しあうという、ユニークな部
会運営であった。

部会主題は、両部会とも、①
生涯学習をどう受けとめるか。
②公民館活動・事業の展開方向
について、であった。

- 館長部会
 - 第一分散会
 - 司会 小千谷市公民館長 篠田朝隆
 - 記録 入広瀬村公民館長 榎沢梯一
 - 第二分散会
 - 司会 小出町公民館長 柳沢薫
 - 記録 広神村公民館長 山本節夫
 - 第三分散会
 - 司会 湯之谷村公民館長

- 速藤政美
 - 記録 堀之内町公民館長 市川靖
 - 第四分散会
 - 司会 守門村公民館長 高橋金一
 - 記録 川口町公民館主事 渡辺勝
 - 主事部会
 - 第一分散会
 - 司会 広神村公民館係長 星野勝
 - 記録 広神村公民館社教主事 青木悟
 - 第二分散会
 - 司会 小出町公民館主事 猪又孝
 - 記録 湯之谷村公民館主事 星政晴
 - 第三分散会
 - 司会 入広瀬村公民館主事 浅井健五
 - 記録 堀之内町公民館主事 星野隆
 - 第四分散会
 - 司会 守門村公民館主任 渡辺金作
 - 記録 守門村公民館主事 酒井修

投稿大歓迎

四月号から、この面を公民館利用グループ・サークルの交流の広場にします。活用してください。投稿大歓迎です。

柏崎市中央公民館主事

伊丹 俊彦氏(28歳)

体育課から移動して来て二年目、現在業務にもなれて活動している。

少年・青年関係事業を担当しているが、若さを発揮し子供達、青年達の指導に、生き生きとしている。

公民館は、もっとも市民とのふれあいが多い所であり、又、



広く世間にも知られてもらうため、関係研修会等には、つ

素顔拝見

糸魚川市西海公民館副主事

仲林 範子さん(37歳)

「ヤー良く働いてくれます、気持ちの良い子ですよ。」開口、館長さんのお言葉です。

公民館へ勤務されて四年の彼女は、一男一女の母であり、14ヘクタールの水田にも精を出している主婦でもある。

今、どんな仕事を担当?

「乳幼児学級、婦人、高齢者学級、そして年齢層にあったサークル活動かなどにかく幅が広く、皆さんについて行くのがやっとなです。」と言ひ彼女です

が、もの見事にこなしていま

とめて出席してもらっている。顔を見かけたら、皆さんのご指導をお願いしたい。

これから、今までに得た経験をもとに活躍が期待されているが、自分の担当だけにとどまらず、何事にも積極的に取り組んでみたい。

近々、父親になるといふ事で、仕事にも張り感が感じられ、うらやましい事である。

将来の、柏崎市の公民館活動発展を担う、若きホープである。(柏崎市中央公民館事業係長) 飯塚純(記)



す。館長さんは、「とにかく彼女はいつも前向きで、公民館活動(仕事)に興味をもっていきますね、そして、地区の皆さんと「共に学ぶ」という謙虚な姿勢が彼女を向上させているのでしよう。

そんな彼女だから地区の皆さんの信頼も厚いですよ。」と言う。側で彼女は、「地域づくりは、人と人との和が大切ですね」と静かに笑っていました。

(糸魚川市今井公民館主事) 斉藤京子(記)

推 薦 図 書



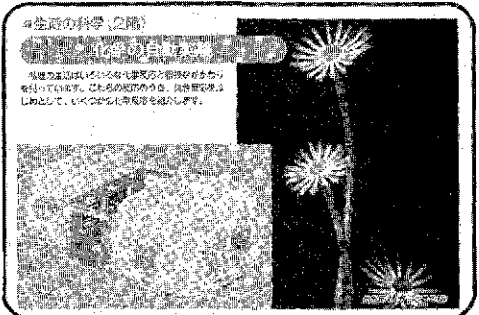
滝沢秀一著
国書刊行会

アンギンと釜神さま

本県公民館界の先達として知られる津南町の滝沢秀一氏が、ライフワークとして進めてこられた秋山郷の民俗を伝える研究誌「アンギンと釜神さま」をこの程刊行された。

文化庁主任調査官天野武氏は『いわゆる民具と習俗とを一体不難のものであるとの民俗観に立ち、日本を代表する山村の典型地である秋山郷の特色を見事にとらえている。』釜

新しい展示物のご案内
新潟県立自然科学館
などが展示。
では、二月二十五日から新しい展示物で入館を呼びかけている。小中学校の子どもたちも春休みが近づいているが、公民館の事業として、地域・町内の子ども会活動の一環として、活用をおすすめしたい内容である。
一、宇宙からのメッセージ宇宙線の飛跡を見る装置(霧箱)を中心に、月や太陽の映像隕石
二、化学の自動実験Ⅱ炎色反応をはじめとして、いくつかの化学反応を紹介している。
三、過去の生物Ⅱ化石を展示し、化石の成因や化石などから復元した過去の自然を紹介するコーナー。
展示期間は、二月二十五日から通年の常設展示。
入館料は大人五百円、小中学生は二百円。
詳細の間合わせは、新潟市女



池字蓮濁東二〇〇番五、電話(五二六三)三三一 新潟県立自然科学館へ

清らかな詩情とロマン
三芳悌吉展開催
新潟県美術博物館

三芳悌吉は幼・少年期を新潟ですごすなど、新潟とかかわりの深い作家。二科展会友をへて行動美術教会の創立会員となり、戦後美術の一つの流れ「行動美術協会」を推進してきた重要な作家の一人でもある。
詩情あふれる緻密で美しい画面からは作家のこまやかで温かなまなざしが感じられる。
今回の「三芳悌吉展はこのよ様な作家の幅広い制作活動を一堂に展覧するもので、行動美術協会の出品作から挿し絵まで二百点を展示する。
会期 4月8日(日)～5月13日(日)
会場 新潟県美術博物館
観覧料一般・大学生500円(400円) 小・中・高生200円(100円)
（ ）内は20名以上の団体
解説会毎週上、日曜、祭日の午後2時から作品解説を実施。
内容等に関する問い合わせは、新潟県美術博物館学芸課、担当は木井・渡辺両学芸員宛
電話〇二五二二五―三七七二

あとがき
◆平成元年度も終りです。今月号で「続公民館日記」をひとまず終ることにしました。公民館に寄せる熱い思いを、その健筆で毎月綴ってくださった筆者徳間助夫氏に心からお礼を申し上げます。
◆四月からは、装を新たに、その時々思いを広く読者から寄稿していただくことにしました。取り上げる内容は、季節のたより、エッセイ、公民館ニュースや感想などなど自由です。題して「公民館歳時記」と命名します。(上村記)

発行所 新潟県公民館連合会
【新潟市川端町2-9・県林業会館内】
【電話・新潟(025)224-6073】
発行人 会長 木下清一
編集人 事務局 上村捨二郎
【定価1部120円 年共1,440円】